

石巻市・大川小学校の津波訴訟

東日本大震災の津波で犠牲になった宮城県石巻市の大川小学校の児童の遺族が訴えた裁判で、石巻市と宮城県は14億円余りの賠償を支払うよう命じた判決を

不服として、11月7日午前、仙台高等裁判所に控訴しました。

津波で犠牲になった石巻市の大川小学校の児童74人のうち、23人の児童の遺族が訴えた裁判で、仙台地方裁判所は

先月26日、「津波が到達するおよそ7分前までに、

市の広報車が避難を呼びかけたのを教員らが聞いた時点で、

津波が到達する危険を予測できた」と指摘し、石巻市と宮城県に

対し、原告全員に合わせて14億2600万円余りの賠償を支払うよう命じました。

控訴をめぐり、石巻市の亀山市長は先月の議会で、「教職員が小学校に大規模な津波が来ることを予見することは不可能であった。およそ7分間で、裏山に無事避難できたとは考えられない」という考えを示しました。また宮城県の村井知事は「教員はあの時点ではベストの選択をしたと思う。一方的に非があるとは思わないので、控訴審ではその辺りの主張を聞いて判断してほしい」と話しました。(NHKニュースより)



大川小学校に津波がきた様子



地震発生時14時46分、児童は下校中か「帰りの会」の途中だったことを想定して欲しいと思います。パニック状態だった教員は校庭から避難マニュアルに書かれていた「高台に避難」を右図のように判断しました。すぐに裏山に登るのではなく、堤防と同じ高さにある県道に出ようとした可能性が証言から明らかになりました。自らの命を失った教員・児童は言うまでもなく、その遺族の気持ちを考えると、東日本大震災を単なる自然災害ではなく、大きな事件として考え直す必要があるのではないかと思います。皆さんはどう思いますか。

☆今年もやります！あすKyotoフェスタ

「あすのKyotoフェスタ」に出展します。

京都府が主催する地域創生イベント

今年も物品・東北産の食品を販売します。

売上げ・募金は被災地へのクリスマスギフトにあてます。

皆さん、散歩がてらに是非お越し下さい!!吹奏楽部も出演します。

日時：11/23(水・祝) 10~16時

場所：京都府立植物園

<写真は昨年度>



中学校・高等学校です。

熊本の被災地のいま

平安女学院中学校・高等学校の科目「聖書」を担当されている仲村順子先生が、10月に熊本の被災地に向きボランティア活動をしてきたそうです。高校1年生の実行員、金本晴華さんと富永桃香さんが現状を知るためインタビューをしました。地震発生から6ヶ月が経った被災地は、いまどうなっているのでしょうか。

質問① なぜ、熊本へ訪問(ボランティア)しようと思ったのですか。

(仲村先生) 日本聖公会の九州教区から被災者支援のボランティア募集をしていたのを見つけて、何か手伝えることがあればなあと思い、申し込みをしました。

(横ずれにより割れた道路) →



質問② 熊本では実際どんなボランティア活動をしましたか。

(仲村先生) 仮設住宅に住んでいる方や、高齢者の多い地域を訪問しました。地震によって壊れてしまった家屋の瓦礫の撤去作業やゴミの廃棄・掃除をしました。また、家屋から出てきた写真などの大切なものを、その持ち主に渡したり、ゴミの分別をしました。

質問③ 熊本へ訪問をして感じたことをお聞かせ下さい。

(仲村先生) ニュースに上がっていることには皆関心を持つけれども、上がらなくなると大丈夫だと思い、関心が薄れていってしまう。だが、現地はまだまだ苦しんでいる。人との関わりに飢えているため、現地の人との関わりを今後も続けていくことが大切だと思う。



先生から提供された写真

左 (住居の密集した地域)

右 (郊外の大きな住居)



質問④ ここから私たちが何を学び、何ができるとおもいますか。生徒に伝えたいことをお聞かせ下さい。

(仲村先生) 現地の人にクリスマスカードを送ってみてはどうか。被災された方の心の支えや心の支援をしてあげることが大事だと思う。また、私たちが被災地の方のことを忘れていない・ひとりじゃない・ちゃんと理解しているよということを伝えてあげること。

私たちが、様々な形で支えていくこと。それをするによって、被災地の方々は人々の気持ちに支えられることにより、頑張れると思う。だから、被災地より遠い所にいる人が被災地の方のことを知ってくれているというだけでも支えになるはず。

(委員2人) ありがとうございます。仲村先生、貴重なお話ありがとうございました。

